地域の農地と農業を守り安定した経営、明るい地域と農業を目指す営農プラン

平成29年6月2日
修正　平成29年8月4日
申請者住所　米子市[redacted]
氏名　　長谷川　光昭

1　はじめに

平成 15 年頃から地域農家の高齢化が進み、自家営農が困難となる農家が出始めました。

このままでは地域の農地は維持できないとの思いで、会社退職後、自作地 120a に加え、周辺の規模縮小農家から農地を借り受け、平成25年には借地738.5aの水田（稲作）耕作するようになりました。

平成 27 年には、周辺地域の農家の期待から、耕作放棄地対策のためにも地域貢献したいとの思いで、米子市に農業経営改善計画を提出し、認定農業者として認められました。

この間、私の集落では平成15年には、農家が24戸あり、平成28年には農家が7戸に激減してしまいました。

現在、私も[redacted]となりますが、若い人（後継者）に引き渡せるような経営基盤を整えたいと思っています。若人に希望のもてる農業経営の実践を目標に掲げて、必要な機械を整備し、労働力を確保しながら規模拡大に取り組み、地域の農地と農業を守り安定した経営、明るい地域と農業を目指したいと考えています。

2（1）経営の概要（平成28年実績）

（ア）経営面積と作付品目

面積	品目
404.4a	きぬむすめ
67.7a	ひとめぼれ
510.3a	飼料用米（日本晴）
3.7a	転作（自家野菜）
合計 986.1a	

（イ）労働力

	年間従事日数	[redacted]
本　人	300日	
[redacted]	150日	
	30日	
	15日	
臨時雇用（ｵﾍﾟ2名含む）	4人（31人役）	

（ウ）主な現有機械等一覧表

機械 名称	取得年月	性能、台数	機械 名称	取得年月	台数
トラクター	H20.12（中古）	31ps 1台	育 苗 機	H25.7、H26.12	2台
コンバイン	H26.10（中古）	30ps(3条)1台	軽トラック	H25.8	1台
畦 塗 機	H23.6	1台	洗 浄 機	H26.10	1台
田 植 機	H24.1（中古）	5条 1台	播 種 機	H26.2、H26.12	1台
草 刈 機	H23、H25、H26	自走 3台	乾 燥 機	H18.2	1台
草 刈 機	H21～H26	肩掛用 7台	籾 摺 機	H18.2	1台
管 理 機	H25.8	1台	代掻機ハロー	H23.6	1台

(エ) 年間の作業体系

項　　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
播　　種			●――	――	――●							
育　　苗			●――	――	――	――●						
圃場準備			←―	耕転代掻	―→							
田　　植					●――	――●						
圃場等管理	、圃場整備、畦塗、畦シート貼、草刈、防除、水管理、畦シート											
収　　穫									●――	――	――●	

（２）地域水田の現状

（ア）平地位置水田

湿田で排水が悪く、冬期、春期作業の日数が縮少され作業期間が長期間となる。

（イ）山間地位置水田

畦畔が高く（高い水田で約 6m）、水漏れがあり、土質はマサ土が多く畦畔が崩れる危険が大きい。

（ウ）地域水田筆数と一筆当りの面積　平成29年

地域水田筆数				耕作地水田の筆数				
平　地	60筆	一筆当り	10a未満	平　地	26筆	一筆当り	10a未満	6筆
			11a～20a				11a～20a	7筆
			21a～30a				21a～30a	13筆
山間地	90筆	一筆当り	10a未満	山間地	45筆	一筆当り	10a未満	19筆
			11a～20a				11a～20a	23筆
			21a～30a				21a～30a	3筆
合　計	150筆				71筆			71筆

３　課題、改善内容

（１）農地中間管理事業を活用した農地集積

活用する農地が点在しているため、作業効率が低く労力が分散し経営に大きな障害となっています。

このため、出来る限り校区内に農地を集約し作業効率の向上を図ります。

地区内で兼業農家は７戸が限られ、小型農機を自己所有し、田植から収穫まで各自で耕作されているため、残りの地区農地の集約には限界がありますので、五千石校区内に視野を広げ、耕作面積の拡大を図ります。

目標達成には、今まで以上に自己努力が必要です。機会あるごとに校区内の知人から情報を収集し、農地中間管理事業を活用し、耕作地の隣地を借り入れるなど農地の利用集積を図ります。

（２）適地適作

作物を栽培し商品化し販売し、収入を得て経営を安定させ、農地と農業を改善、発展させるためには、その土地に適した作物の選定が重要となります。当地区でも某団体指導により、ラッキョウ、梨、白葱等の栽培に取組んだ経験者の一人です。昨年他地区の認定農業者と思われる人が白葱栽培に取組まれましたが、収穫出来な

く失敗に終わられたようです。

営農プランにも記載した通り、私の地区の土地は、湿田と山間地位置水田しかなく、今のところは水稲の栽培が適地作と言えます。ハウス栽培もありますが、ハウスの建設に多額の資金を新しく必要とし地権者の許可が必要です。ハウス栽培の知識の修得に時間を必要とします。等々水稲以外で安定した経営に到達するまでには、多くの時間と多くの経費が必要です。

このため、借り入れた農地では、水稲を栽培します。今ある土地（土質）状況に合せ栽培できる作物は水稲が最適です。これにより地域の広い面積の土地を少ない労働力で耕作でき、農地を守ることができます。

尚、山間土地一部を活用し、転作作物の試験栽培に早急に着手したく思います。

（３）大型機械導入の目標

（ア）水稲コンバイン

所有しているコンバインは能力が低い（30ps、３条）ため、湿田の多い平地水田では、一度雨が降れば２日～３日は稲刈りに入れず刈取り困難となります。

山間水田は日照時間が短く水田畦畔が高いため、風通しが悪く、夜露が稲穂から離れにくいため、コンバイン内で詰まりやすくなり、早い速度での刈取りができません。

また、水田の区画が小さく、刈取りに長時間を必要とし、ほ場間の移動にも多くの時間を必要とします。

このため、新たに水稲コンバインを導入し、平地、山間部ともに刈取り時間を短縮し、増加する作業に対応していきたいと思います。

また、現有コンバインにはキャビンがなく、エンジンからの熱風を体に受け、塵埃が舞上がる中での作業は耐えがたいことです。

若人に希望のもてる農業経営の実践を目標に掲げて、これからの農業を託すには、キャビン付のコンバインは必要条件です。

水稲コンバイン作業計画

年　度		年間刈取り面積	年間刈取り総面積
Ｈ２８	自作	893a	893a
実績	委託	89.4a	89.4a
Ｈ２９	自作	1013a	
目標	受託	0a	1013a
Ｈ３０	自作	1100a	
目標	受託	50a	1150a
Ｈ３１	自作	1200a	
目標	受託	100a	1300a
Ｈ３２	自作	1300a	
目標	受託	150a	1450a
Ｈ３３	自作	1400a	
目標	受託	200a	1600a

（イ）トラクター、代掻きハロー

所有しているトラクターは能力が低い（31ps 耕転幅 170cm）ため、春期の耕転作業一回で田植を実施しているのが現状です。それでも耕転作業時間が不足し、田植が遅れている状態です。

また、借受け水田では特にクログワイ、ホタルイ等の雑草が多いため、除草剤の効果が持続せず、除草剤の散布に余分に経費と手間がかかっています。

このため、新たにトラクターを導入し、春期の不足する作業に対応し、秋冬の耕耘作業を実施することで、冬期間に雑草、害虫の駆除を行い、除草剤等の経費節減に繋げたい。

また、トラクター取付の代掻機は、幅が狭く、重量が軽く押える力が弱いため、代掻後、田面に高低差が生じています。このため、適切な水管理ができず、深水場所は苗腐れが生じ、浅水場所は除草剤の効果がなくなり雑草が多く発生し稲の生育を阻害しています。

このため、新たに代掻きハローを導入し、代掻き作業の増加に対応します。

また、現有トラクターにはキャビンがなく、代掻作業で降雨時は雨衣着用となり気温低下時には寒さも生じ、健康面を考慮し作業を中止する日が多々あり作業が遅れます。

私は、小学生の頃から農業を手伝い、雨の日でも、今日のような雨衣はなく、子供の頃から蓑笠を付け寒さに震えながらでも、鎌で草刈り、稲刈り、素手で田植、田草取り、雨に濡れ土に汚れての百姓を、身をもって経験し生長してきた一人です。

若人に希望のもてる農業経営の実践を目標に掲げて、これからの農業を託すには、キャビン付のトラクターは必要条件です。

トラクター、代掻きハロー作業計画

項目＼年度	Ｈ２８年 実績	Ｈ２９年 目標	Ｈ３０年 目標	Ｈ３１年 目標	Ｈ３２年 目標	Ｈ３３年 目標
自作　耕転	1回　982.4a	2回　2026a	2回　2200a	2回　2400a	2回　2600a	2回　2800a
自作　代掻	1回　982.4a	1回　1013a	2回　2200a	2回　2400a	2回　2600a	2回　2800a
自作　畦塗	1回　982.4a	1回　1013a	1回　1100a	1回　1200a	1回　1300a	1回　1400a
受託　耕転	－	－	1回　50a	1回　100a	1回　150a	1回　200a
受託　代掻	－	－	1回　50a	1回　100a	1回　150a	1回　200a

（ウ）田植機

所有している田植機は５条植ですが、ほ場の植付け条件が良くても、欠株が生じるため、低速で植付け作業を実施しており、作業効率が悪く、適期の植え付けができていません。

このため、新たに田植機の導入により、施肥、除草剤、農薬散布を同時に行うことにより、作業効率の向上を図り、増加する作業に対応したい。

田植機作業計画

項目＼年度	Ｈ２８年 実績	Ｈ２９年 目標	Ｈ３０年 目標	Ｈ３１年 目標	Ｈ３２年 目標	Ｈ３３年 目標
自　作	982.4a	1013a	1100a	1200a	1300a	1400a
受　託	－	－	－	100a	150a	200a
合　計	982.4a	1013a	1100a	1300a	1450a	1600a

（オ）汎用トレーラ

ほ場が分散しているため、ほ場からほ場への農機の移動に時間がかかっています。作業は一日で終了することはなく、一場所で２日～3 日は必要のため、ほ場に機械を放置することはできず、時間をかけて自宅から通うしかなく、不用な時間をかけています。

また、舗装道路上の走行であり、タイヤ、キャタピラの摩耗が早く、タイヤ等の交換頻度が高く経費も多く必要となっています。

このため、農機を積載できる汎用トレーラを新たに導入し、農機の移動を迅速に行い、作業の軽減を図りたい。

（４）後継者の育成

長男、次男と事あるごとに会話をする時、長男、次男ともに家に農地がある以上、また借地が増え、経営基盤が確立しつつある状況を確認し、貸方の農家の農地を守り続けることが責務であることは認識しております。

また、高校生になる孫たちも毎年、繁忙期には休日等利用し、家族労働要員として活躍してくれています。

後継者は６年後に[redacted]農業に専念すると以前から長谷川家では決まっています。

今 10 ha規模（H29）の経営基盤ですが、道半ばです。規模拡大することが担い手を始めた経営者としての役割であり、次期後継者への指標となる一つの手段だと思っています。

長男も現況を理解し、就農後は地域の若人と共に法人化に切り替え、経営を安定させ、規模拡大を図ることを計画しています。

手始めに H29.2 月に大型農機に必要な大型特殊自動車免許の取得を終え、長男、次男とも私に続き免許取得を計画している状況です。

（５）雇用の拡大

現在の労働力は季節により臨時雇用で、十分対応出来ています。働いていただく人は、会社を退職、又会社不振により失業、個人経営であった大工さん、左官さん、小規模農家の人、元建設現場で大型重機の運転等、色々な職業で働いておられた方たちです（うち、大特免許保有者２名を含む）。この方たちがグループを作り、以前の職場での特技を生かし、オペレーター、農機の修理等にも活躍していただいています。労

賃は、トラクター、コンバイン、田植機等、機械操作者、草刈り等農作業であれば同額ですが、人としても信用出来る人達ばかりで安心して仕事をしていただける職人さん達です。グループの代表者に電話により、作業依頼ができ、約１０年前から臨時雇用として何のトラブルもなく働いていただいています。

後継者[redacted]に経営を引き継ぐ間、グループとのつながりを大切にしながらオペレーターを確保していきます。

具体的には、農繁期にはオペレーター２名を含む臨時雇用を 31 人役から 50 人役に増員し、[redacted]と２人体制で年間労働日数 370 日以内としたゆとりのある営農を目指したいと思います。

また、現時点で正規雇用は考えていませんが、必要な時が来た時にはこのグループ内からの採用を考えています。

労働計画、オペレーターの活用計画、雇用計画

	[redacted]	H28実績	H29目標	H30目標	H31目標	H32目標	H33目標
本人	[redacted]	300日	290日	290日	270日	260日	250日
[redacted]		150日	140日	130日	120日	110日	100日
		30日	30日	30日	30日	30日	30日
		15日	15日	15日	15日	15日	15日
臨時雇用	20～60代	4人(31人役) オペ2人含む	4人(35人役) オペ2人含む	4人(40人役) オペ2人含む	4人(45人役) オペ2人含む	4人(50人役) オペ2人含む	4人(60人役) オペ2人含む

<参考>

	[redacted]	H34目標	H35目標
本人	[redacted]	240日	100日
[redacted]		90日	40日
		30日	280日
		15日	15日
臨時雇用	20～60代	4人(70人役) オペ2人含む	4人(80人役) オペ2人含む

4　プラン目標

プラン実施期間　平成 29～31 年（3 年間）

目標年度：平成 32 年

① 目標：経営規模の拡大

数値目標：現状経営面積 982a から 13ha への拡大を目指す。

② 目標：作業受託の拡大

数値目標：現状面積 0ha から 6ha（延べ）への拡大を目指す。

③ 目標：雇用の拡大

数値目標：現状臨時雇用者 31 人役から 50 人役への拡大を目指す。

農業経営の規模の拡大に関する目標

	年度 品種	H28 実績	H29 目標	H30 目標	H31 目標	H32 目標	H33 目標
水稲	ひとめぼれ	67.7a	0a	0a	0a	0a	0a
	きぬむすめ	404.4a	486a	530a	550a	600a	650a
	飼料用米	510.3a	527a	570a	650a	700a	750a
	合計	982.4a	1013a	1100a	1200a	1300a	1400a
野菜	自家用	3.7a	3.7a	3.7a	3.7a	3.7a	3.7a
作業受託	水稲刈取り	—	—	50a	100a	150a	200a
	耕運	—	—	50a	100a	150a	200a
	代掻	—	—	50a	100a	150a	200a
	田植	—	—	—	100a	150a	200a

5　具体的な取組と役割分担

項　　目	H29	H30	H31	H32	H33	連携機関
経営規模の拡大	○	○	○	○	○	本人・機構・市等
水稲の規模拡大	○	○	○	○	○	本人
水稲コンバインの導入	◎					県、市、本人
トラクターの導入		◎				県、市、本人
代掻きハローの導入		◎				県、市、本人
田植機の導入			◎			県、市、本人
汎用トレーラの導入			◎			県、市、本人
新規作物の試作	○	○	○	○	○	本人
後継者の育成	○	○	○	○	○	本人
年間労働日数の削減	○	○	○	○	○	本人
臨時雇用の拡大	○	○	○	○	○	本人

※◎は県、市の支援が必要なもの（がんばる農家プラン支援事業）

6　支援事業の内容

取り組み内容	事業費（税抜）	負担額（千円）		
		県	市	本人
水稲コンバインの導入（4条）	9,943	3,000	1,500	5,443
トラクターの導入（63ps） 代掻きハローの導入	9,846	3,000	1,500	5,346
田植機の導入（6条）	2,626	875	437	1,314
汎用トレーラの導入	728	242	121	365
合　　計	23,143	7,117	3,558	12,468

（注）県の単年度補助上限額は個人 3,000 千円

7　終わりに

私が耕作している山間地域水田は、先人の人々により、山、畑を人力で開拓し、江戸時代、日野川上流より、「佐野川」を提灯の明かりを水平器の代用とし、水流を調節しながら農民総出で作り上げ、尚徳地区（現在の米子市永江団地内）の山中を流し、水田を開拓された場所です。

数多くの「棚田」は、圃場整備により小区画は多少改善されたものの、畦畔は高く法面も長く、草刈りに苦労し、今日の水稲栽培（平地と比較すると）に適しているとは思えないほど、小区画の水田が多数あります。

しかし、先人の苦労で、山、谷ばかりの地に、水を引き、稲を植え、食を得て人の集まりを守っていただき、今の私達があると思えば、大切な水田の使い方を若人と共に考え作り上げることが私の使命です。

今後、各方面の指導を仰ぎながら、先人の思いを心に刻み、農業として、有効活用出来る作物を作り出し、大きな夢を持ち、大きな宝に作り上げ、担い手農家の基本を忘れることなく、地域農業の再生を目指し、私の目指す、がんばる農家プランの成功を願うものです。